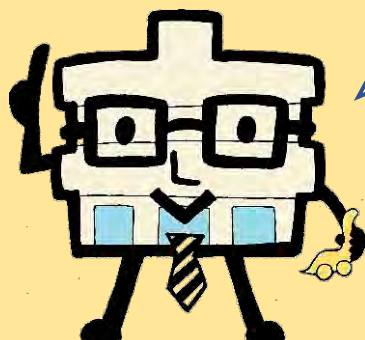


大泉あさひで通信

発行：社会福祉法人 大泉旭出学園 旭出生産福祉園 〒178-0063 東京都練馬区東大泉 7-21-32
TEL：03-3925-6166 FAX：03-3925-6169 ホームページ <http://www.asahide.or.jp/>



秋が深まって
きましたね



コロナ禍 “雑感”

旭出生産福祉園園長

浅井 浩

東京五輪、ジェンダー、多様性、共生社会

新型コロナウイルスの感染拡大で、昨年の4月7日に出された緊急事態宣言は、5月25日に全面解除されたものの、その後も感染状況は収まらないうまま年を越し、本年1月7日には再度の緊急事態宣言が発出されました。そして不安視されながら3月21日に宣言は解除されました。それは3月25日に東京五輪の聖火リレーがスタートすることになっていくこととの兼ね合いもあったようですが、不安視された通り、4月23日に3度目の緊急事態宣言が発出され、その後は、宣言の期間延長や対象区域を変更する宣言が相次ぐことになりましたが、聖火リレーは沿道の観客が密集しない対策を講ずることで、予定通りスタートしました。

しかし、リレーの走者が辞退を申し出たり、一部地域では公道でのランナーの走行を中止し、公園等で聖火を引き継ぐセレモニーだけを無観客で行うところもあり、東京都の場合は、島しょ部を除く全域でランナーの走行を取りやめ、聖火の引き継ぎセレモニーだけの形となりました。

東京五輪は中止すべきとの声が高まり、専門家からも「今の状況でやるというのは普通はない」と開催を危惧する意見を表明するなかで、海外からの一般客の受け入れを断念し、会場を無観客にして強引ともいえる開催となり、五輪期間中にも、また東京五輪に続くパラリンピックの開催目前にも、宣言期間の延長や対象区域を拡大する宣言が発せられる事態となりました。東京パラリンピックも全会場が原則無観客の開催となりました。

開催予定を1年延期し、海外からの一般客の受け入れを断念しての無観客の五輪は史上初だそうです。1年の延期は「完全な形で開催するため」だったはずですが、日本政府、東京都、五輪組織関係者、競技選手、一般市民らのそれぞれの思いはおそらく様々であり、簡単に五輪開催の是非を問うわけにはいきませんが、オリンピックとは何かを改めて考える機会にはなつたと思います。

外国人の入国を制限し、競技会場を無観客にしての開催は本来の形ではないわけで、当初に掲げられた「復興五輪」「コロナに打ち勝つた証し」「安全安心な大会」などとは言い難いこの度の東京五輪・パラリンピックは歴史上ではどのような評価となるのでしょうか。

オリンピックのことだけでなく、コロナ禍は、人々の生活に関わる歴史的・社会的に形成されてきたこれまでのものの見方や考え方を見直す機会にもなつたと思います。

東京五輪組織委員会の前会長の発言が、いわゆる「女性は…」「男性は…」という性差に関する「ジェンダー」論議を巻き起こしました。また男性から女性へ性別を変更し、女性として重量挙げに出場した選手もいるなど、性の多様性にも目が向けられました。ジェンダー問題は、障害者に対する偏見・差別の問題を考える視点にも通じ、偏見や差別の問題は人権の問題に通じることだと思えます。

多様性の時代といわれ、多様な人々が共に生きる「共生社会の実現」が政策課題として掲げられ、厚生労働省の取り組みの一つに「ダイバーシティの推進」があります。ダイバーシティとは「多様性」を意味し、障害者・病人・若者も年寄りも・女性も男性も関係なく、誰もが多様な働き方の選択が可能な社会を目指す取り組みを推進するということだそうですが、現実とのギャップは大きな課題だと思えます。

「旭学園連絡協議会」の開催

7月30日(金)に、「旭学園連絡協議会」が開催されました。

旭学園連絡協議会は、毎年7月末と11月末の2回、旭学園(特別支援学校)を会場に、いわゆる旭出グループ(学校法人旭出学園・社会福祉法人富士旭出学園・社会福祉法人大泉旭出学園の三法人の全事業所をいう)の代表(理事長・校長・教頭・園長・施設長・関係職員)が集まり、グループの結束・連携を図る目的で、各施設の近況や事業の推進に関する情報交換などのほか、旭出グループの「新任職員研修会」「中堅職員研修会」の実施に向けた検討を行います。

昨年度の旭出学園連絡協議会は、コロナのために2回とも中止になりましたが、今回はコロナ対策としてオンライン方式で行われました。11月26日(金)に予定されている同協議会もオンラインで行うことになっていきます。今やインターネットの利用は当たり前であり、今後はこうした会議や研修会の方法はコロナ禍の方便というより、ごく普通に取入れられていくものと思います。

コロナ禍が提示してくれた問題や課題について改めて気付くことで、それを積極的にどのような受け止め、どのように乗り越えていくかというところに、「災い(禍)転じて福となす」可能性が秘められていると思えます。

新型コロナウイルスによる感染症状や治療法等は明らかにされてきましたが、感染後の後遺症や変異型のウイルスによる感染拡大が問題視されています。予防ワクチン接種の効果が表明されていますが、油断できない状況は当分続くと考えなければなりません。何よりもまず、「三密」を避け、手洗い、マスク、が予防の基本とされています。

コロナ禍も試練の一つと前向きにとらえつつも、「コロナ終息」を切に願っている次第です。

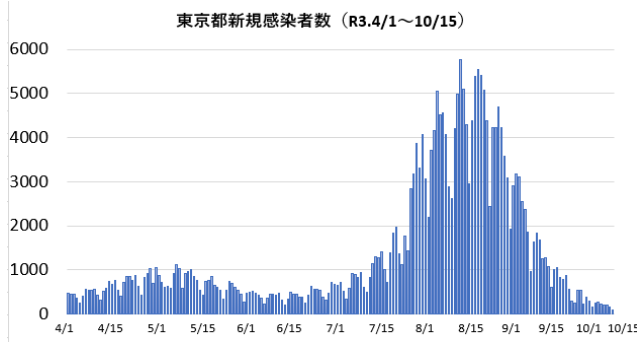
コロナウイルス対策状況

世界的に流行の収まらないコロナウイルスですが、日本では7月中旬から感染者数の増加が顕著となり一日あたり全国では2万人を、東京都では5千人を越えることもありました。

7月12日～9月30日まで緊急事態宣言が発令され、現在のところ新規感染者数は落ち着いているようです。

現在の日本は感染対策もしなければならず、経済も回さなくてはならないと、非常に難しい局面に立たされていると感じます。

累計感染者数	
世界	240070992人
日本	1706454人
東京	377093人



福祉園でも新しい生活様式として不要不急な外出を避け、密にならないようなソーシャルディスタンスを意識する、マスクの着用、手洗い、うがい、手指のアルコール消毒を日々行っています。

■ ワクチン接種状況

入所利用者については練馬区に福祉事業証明書を出すことで優先的に接種を受けることができ、接種を希望された65歳以上の方は6月中旬には接種を終え、65歳未満の方も8月上旬には接種を終えました。

発熱等の副反応が出た方も数名いらっしゃいましたが重篤な症状が出る方はおらず、皆さん健康に過ごされています。通所の利用者についてはご家庭の協力で順次接種をすすめていただいています。職員については産業医の先生が優先的に接種を行ってくれ、7月上旬には希望者の接種を終えました。

これで一安心と思っていたのですが、ワクチンを接種したからといって感染を完全に防げるわけではなく、また変異株の流行もあるためこれからも油断せずに感染予防を徹底していきます。

■ PCR検査の実施

東京都からの要請で施設内クラスターを発生させないための予防策として職員

のPCR検査を行っています。感染の再拡大を防止する観点から検査を12月まで実施することになりました。

PCR検査キットは写真で載せたものとなります。唾液を採取して専用の液剤と混ぜ、専門機関に郵送して検査をしていただいています。

現在、陽性の結果が出た職員はおらず福祉園内にコロナウイルスが持ち込まれていない状況です。

これからも皆さまひとりひとりの意識が大事になってきますので何卒よろしくお願いたします。(仲間)



唾液を採取



PCR検査キット



まとめて発送



キャップをしめる

入所式

4月1日、今年度の入所式が行われました。いつもは全園生も参加していましたが、コロナ対策で、新入所者が所属するグループのみで行いました。

3人の新入所者が加わり、皆さんお仕事や活動を楽しみにしながらも、これからはどんなことをするのだろうかという緊張がとも伝わる式でした。
皆さんの活躍を期待しています！



青葉のつどい

5月といたら『青葉のつどい』です。昨年度は新型コロナウイルスの影響もあり、中止になりました。今年度もまだまだ感染症は続いていましたが、何とか開催できないかと、福祉園と学校の委員会が計画をして、縮小での開催にこぎつけました。

学校と福祉園が一堂に会する事は難しいと判断し、コロナ禍では当たり前になりました、リモートでも出来るZoom配信での式典を行いました。各科の部屋で、テレビやスクリーンを通して、学校体育館で行っている式典を観るのは不思議な感覚でした。また、生配信という事もあり、式典後には校長・教頭が手を振り、各学部・科が画面に映り、少しですが相互にやり取りができて楽しめました。



Zoom配信

フレンチトースト



(石川)

チョコバナナ
クレープ

とっても
おいしかったよ！

DVDも作成して、学校の各学部・科で授業風景やお楽しみ、福祉園の各科の活動内容を共有しました。久しぶりに見る教室や先生、活動に懐かしく思ったり、新しい事に楽しそう！との声が聞かれたりしました。
福祉園の昼食は、調理職員がみんなの好きな物を沢山詰めてくれたお弁当を頂きました。
午後の活動は各科趣向を凝らし、お楽しみ活動を開催しました。おやつを豪華に手作りした科も多く、またやりたいね！と楽しんでくれていたようでした。

「けんざい」の活動紹介

長年行ってきたブロック製造が終了し、新たな活動を考えてきました。現在は、防臭剤の部品加工や付録の封入作業、貼り絵等を行っています。活動が変わった当初は、多少の戸惑いもありましたが、次第に自分達の活動になってきています。週2回の運動・ダンスは引き続き行っており、健康維持に努めています。ダンスは、みなさん楽しんで身体を動かしており、いつも笑いが絶えない時間です。余暇活動にも力を入れ、定期的なおやつ作りもしています。自分たちで作ったおやつなので、美味しさも倍増します。4月から名前が漢字から平仮名になり活動内容も変わりましたが、みんな元気に明るく楽しく活動をしています。

(丸)



けんざいの職員室の窓には、貼り絵の素敵な作品が飾られています。明るい雰囲気です。訪問する人たちを和ませてくれます。次はどんな作品が出来上がるのか、楽しみです。



防虫剤の部品加工は、小さな穴に紐を通したり板の窪みに1つずつ入れて同じ数の束を作ったり、細かい作業ですが集中して取り組めます。



付録の封入作業は、部品の向きや配置などを確認し、袋を破かないように注意しながら行います。工程の多い作業ですが、みんな分担して完成させていきます。やりがいや喜びを感じながら仲間と協力して活動できることは、とても良い経験になります。



現在は、活動が軌道に乗り、楽しく充実した時間を過ごしています。作業をする時の真剣な表情や取り組む姿勢は、長年続けてきた建材時代に身についた姿だと感じています。素晴らしいです。
(宮崎)

工芸展に向けて

9月に入り、工芸部門の作業が少しずつ忙しくなってきました。今年度も、2年に一度の工芸展が開催されることが決まり、利用者さんたちは張り切っています。福祉園は高齢化が進み、製造数は減少傾向にありますが、多くの方に見ていただけるよう、長年積み重ねてきた先輩利用者さんの技術と若い利用者さんのパワーで、協力して製品作りに取り組んでいます。皆様のご来場をお待ちしております。



第二十九回 旭出学園工芸展

令和4年3月2日(水)から
3月7日(月)まで
場所 日本橋三越本店
本館7階催し物会場

納涼会

入所部では8月22日に納涼会を行いました。

今年の納涼会も去年に引き続き密にならないよう配慮しました。

食事席は互い違いになるよう配置し、盆踊りは人数を決めて順番に行いました。

特別食堂ではボール投げと輪投げのゲームを楽しみました。

今年の模擬店は
お好み焼き、
ハッシュドポテト
飲み物、ゼリーです



スイカ柄の
お皿でおいしく
いただきました

ゲームをクリア
するとお菓子が
もらえます



みんなで盆踊り
楽しいね！！



コロナ禍のなか思い切り楽しめる行事が減ってしまっています。そんな中で久しぶりにたくさん動いてたくさん食べられる楽しい時間となりました。

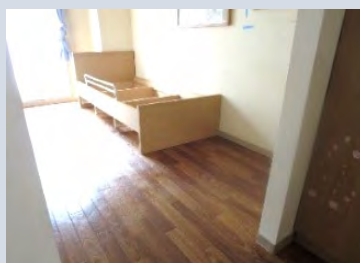
(廣瀬)

入所棟の改装

・居室の分割

入所棟では四月に106号室と107号室を二人部屋から個室に分割する工事を行いました。

一人で静かに過ごしたい方と同室者とわいわい過ごしたい方、双方の希望がかなえられるようにしていけたらと思います。



・浴室タイルの張り替え
男女浴室のタイルを劣化に伴い張り替えました。

冷たくなりやすく、軟らかめの素材になりました。より快適なお風呂の時間を過ごせるようになりました。



(落合)

老化プロジェクト

現在、福祉園は全体の平均年齢が48歳、通所の平均年齢が40歳、入所の平均年齢が57歳となっています。さらに全体で65歳以上の利用者が10名おられます。

年を追うごとに身体的な介護が必要な方が増え、個々に応じた対応が求められています。そこで平成21年から老化プロジェクトを立ち上げて対策を練っています。

具体的な活動内容として

現在は①身体、②摂食、③口腔ケアの三点に力を入れて活動を行っています。

①身体

身体能力の低下により歩行等が不安定になると転倒による怪我や骨折のリスクが高くなります。

そのため理学療法士の方に月に一度診ていただき指導を受けています。

歩行だけでなく、姿勢やバランス、関節の可動域等について、どのような体操や支援を行うとよいのかを教えてください。

②摂食

食事をしっかりと噛んで飲み込む能力が低下すると誤嚥による窒息や、誤嚥

性肺炎のリスクが高くなります。

現在福祉園では常食、一口大、刻み、ペースト食の種類がありその方にとつてどの食形態が最も適しているかを考え、対応しています。

③口腔ケア

口腔内が清潔に保たれていないと虫歯や誤嚥性肺炎のリスクがあります。

職員が歯みがき支援を行うにあたっては34号でもお伝えしましたが、歯科衛生士の方に受けた指導を継続して行っております。

その他三年に一度、対象者をしぼって加齢に伴う行動上の変化をチェック表に基づいて確認しています。22年からのデータが蓄積されているので整理して活用していきたいと思えます。

おすすめの運動

PTの先生におすすめの運動を聞いたところ、テレビ体操を行うとよいと話がありました。

絵で説明している運動ではどうしても細部が伝わらないそうです。

毎日の運動を習慣化して日々健康に過ごしていきたいでしょう。

(兼子)

マカトンクラブ

平成二十九年度より月に1度入所棟1階で言語・コミュニケーションの力を育てる活動としてマカトンクラブを行っています。

研究所の菊池先生と特別支援学校の田村先生と共に、今年度は6名の利用者さんとマカトンサインやシンボルを使ってやりとりを楽しんでいます。

活動内容は、グループに分かれてサイン練習ののち、写真や絵を見せて何の写真かのクイズをしたり、どちらが好きか質問をして楽しんでいきます。



みんながよく使う



おうち



おしまい



ねる



トイレ

(神山)

後援会ご寄付ご芳名一覧(順不同)

令和三年四月～令和三年九月末まで

『みなさまからのご支援ご協力に

厚く御礼申し上げます』



大泉旭出学園の事業につきましてはご高配を賜り感謝、お礼申し上げます。
特色ある独自性を発揮した事業展開とその充実を図っていくためには経営基盤を固めていく必要があります。さらに多くの方々の後援会の会員になっていただきたく、会員の方々にはお知り合いなどにご紹介いただけたら幸いに存じます。
より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



編集後記

以前から一度は東京マラソンに出たいという気持ちがあり、毎年申し込みをしていたのですが、今回奇跡的にエントリーすることができました。
10月中旬の開催予定だったので、このコロナ禍なので参加するかどうか非常に迷っていました。
しかし9月に延期が発表され3月の開催となったため幾分余裕ができました。
3月にコロナがどうなっているかは全く読めないのですが、今より落ち着いていることを祈って練習に励もうと思います。
考えてみるとマラソン大会は確実に不特定多数の人間とすれ違うということと、感染予防をしようにもマスクをしていたらとても走れないということで、コロナとは非常に相性が悪いイベントだなと思いました。
皆さんもコロナで毎年楽しみにしていたイベントがなくなったということがあると思います。
いったいいつになつたら前と同じような生活に戻れるのかと考えてしまいますよね。
無事に開催されたら4月の広報誌で結果を報告できたらと思います。

(落合)